



①パレスチナ暫定自治区ベツレヘムの壁の前で
 ②山下理事長(右)、井上氏(中央)の両金メダリストが指導を行った
 ③エルサレムの「嘆きの壁」



イスラエルとパレスチナに 「自他共栄」 の精神を!

山下泰裕理事長、井上康生氏が柔道指導

NPO法人「柔道教育ソリダリティー」の山下泰裕理事長(東海大体育学部長)は7月17日から23日までエルサレムを訪れ、イスラエルとパレスチナの子供たちのために合同柔道教室を開催した。この柔道教室には2000年シドニー五輪100kg級金メダリストの井上康生氏も参加。1984年ロサンゼルス五輪無差別を制した山下理事長とともに、2人の金メダリストが子供たちを指導した。

記/光本恵子(柔道教育ソリダリティー事務局長)

柔道を通して平和構築を

イスラエルとパレスチナ。日本から遠く離れた中東の2つの国は、自国の文化や宗教に誇りを持ち、その長い歴史を紐解いてみても、ユダヤ人迫害の暗い歴史や、イスラエルのパレスチナ侵略など、ともに激しく対立してきました。お互いに正当な言い分があり、平和を築くために、世界の人々がいろいろな努力を払ってきたことは言うまでもありませんが、この負の連鎖関係に安易に踏み込むことができず、現在

に至っています。

平和の訪れる日を首を長くして待っているこの2つの国のために、柔道で何ができるのか。柔道教育ソリダリティーの山下理事長は、外務省と国際交流基金からの要請を受け、2010年7月17日~23日までこの地を訪れました。また、今回は大きな助っ人である井上康生氏が、日本オリンピック委員会(JOC)の研修プログラムで滞在中のイギリスから参加してくれました。東海大出身の井上氏と、師弟で柔道教室を開催するのは2005年のサントペ

テルブルグ(ロシア)以来でした。

山下理事長はこれまでも柔道の活動を通して、柔道の精神「自他共栄」を世界に伝えてきました。そして、柔道が世界の人々を結びつける運動文化であることに着目し、世界の平和構築に、微力ながらそのお手伝いをしてきました。

柔道の活動による交流は、文化や宗教などの違いを乗り越えて世界の人々の相互理解を深め、フェアプレーの精神は平和の心を養い、友情を培うことは言うまでもありません。その交流方法はいろいろありますが、今回の訪問のように、人と人との信頼を深める側面から交流できたことに、大きな意義があったと思います。

温めてきた計画を実現

山下理事長は、イスラエルとパレスチナの子供たちのために柔道教室を開く計画を、長年温めてきました。今回、このような機会をいただき、実現までこぎ着けることができましたが、最後までパレスチナ側から何人の参加者があるのか、まったく把握できないまま合同柔道教室の日を迎えたのです。

ところが、会場に着くと感動が待っていました。イスラエルから32名、ヨ